

フランスにおけるコンピュータの利用状況について

工学部物質化学工学科 山岸 忠明

フランスのニース大学 Laboratoire de Physique de la Matiere Condensee (C.N.R.S. N° 190) 研究所に、博士研究員として1年間研究に従事する機会を得ました。この折りに際して、ニース大学におけるコンピュータの利用状況について簡単に述べてみたいと思います。

御存じのように、フランスでは、全ての国立の研究機関および研究施設に、フランス国立科学研究所 (Centre National de la Recherche Scientifique: C.N.R.S.) の名のもとに番号がつけられています。大学の研究所でありながら、C.N.R.S. の研究機関の1つになっていることも珍しくありません。私がお世話になった研究所も、研究スタッフとして大学に属する人とC.N.R.S. に属する人の2系統の人がいました。これらのスタッフには、研究と講義が課せられており、外見上は私には全く区別することはできませんでした。スタッフに対して、1人につき1部屋が割り当てられており、そのデスクにはコンピュータ端末としてMacintosh (MAC) が備えられていました。

この研究所は物理学系の研究所であるためか、多くの研究用の装置がところ狭しと置かれてあり、それに付随してオペレート用およびデータ解析用のパソコンが装備されていました。これらのコンピュータを学生およびスタッフが自由自在に操っていました。研究所という環境からか、ここでの学生は8割が博士課程に2割が修士課程に在籍しており、皆が十分にコンピュータを熟知していました。学生に対するコンピュータの実習および演習が行われているそうであり、また、MACを用いたワープロ的手法に関する実習も行われているそうです。これは、将来、MACが修士および博士論文を作るために不可欠なものだからだそうです。ワープロとして用いられるMACは、学生が自由に使うことができるように数多く配置されており、あらゆる種類のソフトウェア (例えば、ワープロ、グラフィック、数値解析、統計処理など) がハードディスク中に内蔵されていました。フランスでも、MACの人気には目を見張るものがあります。

研究所ではMACの他に、複雑な理論計算やシミュレーションを行うために、大型計算機の端末 (IBM製) およびスーパーコンピュータも設置されていました。これらの結果は、図式化されることが多く三次元のグラフィック専用のディスプレイ端末を使う学生もいました。例えば、地震のシミュレーションを行う場合、まず粘土で地球の殻の模型を造り、そこに振動を与えることによりその粘土がどの様に変形するかを写真およびビデオに記録します。次に、これらの記録を画像処理により定量化・数値化してゆくわけですが、ここで、グラフィック専用のスーパーコンピュータが使われてい

ました。ビデオによる実験観察とそれを解析処理するコンピュータとの関係は、とても新鮮に思えました。

最後に、コンピュータを用いたメールについて述べたいと思います。スタッフのデスク上にあるMAC 以外にメール専用端末が設置されており、ヨーロッパのみならず全世界の研究者との情報交換が行われていたようです。しかしながら、その使用頻度は考えていたほど多くはなく、FAXの利用頻度の方がはるかに多いように感じました。私自身、メール専用端末によってメールを送っていましたが、簡単な情報であればFAXの方が使いやすく、それ以後ほとんどメールを使うことはありませんでした。文献検索などは、図書館に行けば専用端末で簡単に行うことができますし、コンピュータ（パソコン）によるメールの有効性を実感できませんでした。これは、私が自分専用の端末を持たなかったためコンピュータと接する時間が短かったせいかもしれません。

以上、とりとめのない話になりましたが、今回、フランスおよび日本に限らず実験・研究がいかにコンピュータに依存しているかを実感し、コンピュータの重要性を思い直すことができました。このような機会を与えてくださったことに感謝いたします。

FACULTE DES SCIENCES -CAMPUS VALROSE-

